

糖尿病による心臓血管病リスクの上昇は男性より女性で 44%高い

過去の分析から、糖尿病のある女性は男性に比べて致死性の心臓血管病のリスクが上昇することが報告されている。その後、さらにいくつかの大規模研究により糖尿病患者における心臓血管病発症の性差に関する報告が発表されている。そこで本研究では最近のデータを用い、糖尿病による心臓血管病発症の男女差について系統的レビューとメタ分析を行った。

PubMed MEDLINE を用いて 1966 年 1 月 1 日から 2013 年 2 月 13 日に発表された論文から住民対象の前向きコホート研究 64 件を抽出した。それらの研究の参加者 858,507 例、新規発症心臓血管病イベント 28,203 例を分析データとした。分析の結果、非糖尿病患者と比べた糖尿病患者の心臓血管病新規発症の相対危険率は、男性の 2.16 に対し、女性では 2.82 と高かった。男性に対する女性の心臓血管病新規発症の多変量調整後相対危険度率は 1.44 となり、女性は男性より心臓血管病新規発症リスクの上昇が 44%高くなることが示された。研究間に有意な異質性は認められなかった。

以上より、糖尿病のある女性では、男性に比べて心臓血管病を発症するリスクが 40% 以上も高くなることが示された。糖尿病がもたらす心臓血管病リスクに性差が生じるメカニズムについてはさらなる追究が必要である。

出典：Diabetologia. 2014; 57(8); 1542-1551